

第5回富山県高等学校少林寺拳法大会

兼 全国高等学校総合体育大会・北信越高等学校少林寺拳法大会富山県選考会・実施要項

- 1 主催 富山県少林寺拳法連盟
- 2 共催 富山県高等学校体育連盟
- 3 主管 富山県少林寺拳法連盟
- 4 日時 令和 元年6月1日(土)
- 5 日程 6月1日(土)
- 9:00～ 集合・更衣・受付 作務・会場設営
- 9:30～ 富山県少林寺拳法連盟理事長挨拶・諸注意等
- 9:45～ 競技
- 10:30 競技終了
- 11:00 閉会式:解散
- 6 会場 富山県営武道館
- 7 種目 ①男子団体演武(4～8名) ①女子団体演武(4～8名)
- ②〃組演武 ②〃組演武
- ③〃単独演武 ③〃単独演武
- 8 参加資格 ① 富山県高等学校体育連盟に加盟している学校の生徒で、当該学校長が参加出場を認知したものであること。
- ② 年齢は、平成12(2000)年4月2日以降に生まれた者とする。ただし、出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。
- ③ チーム編成において、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- ④ 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。
- ⑤ 転校後6ヶ月未満の者は出場できない。ただし、一家転住などの場合で、富山県高等学校体育連盟会長が許可した者は、この限りでない。
- ⑥ 出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け、学校長の承認を必要とする。
- ⑦ 定・通制の生徒がこの大会に出場する場合は、定・通制体育大会には出場できない。
- ⑧ 8-④を除き、組演武・団体演武において、他校の生徒と組んで出場することはできない。
- ⑨ 全国高校連盟に登録されている部・同好会に所属していない生徒の出場も認める。ただし、その場合は財団法人少林寺拳法連盟に登録されていなければならない。
- 9 競技規則等 ① 原則として少林寺拳法競技規則による。
- ② 組演武と単独演武の重複出場を認める。
- ③ 単独演武のエントリーは各校男女各5名までとする。
- ④ 各種目1名に限り他の生徒と組んで2回出場することを認める。ただし、この場合下位の組は表彰対象外とする。また、種目をまたいでの出場は認めない。
- ⑤ 団体演武は1・6構成を法形単独演武、2～5構成を相対組演武(三人掛け等の衆敵闘法は不可)で構成する。要件を満たさないものは失格とする。また、選手8名のうち2名は補欠とし、演武は6人で行わなければならない。なお、4人での出場は特例措置であり、北信越大会・全国大会への出場権は認められない。
- ⑥ 男女混合は認めない。
- ⑦ 団体演武・組演武・単独演武共に本戦を行い順位を決定する。
- ⑧ 本大会で組演武は自由組演武で行うが北信越・全国大会では予選は規定組演武、本選は自由組演武となる。

10 表 彰 種目①～③については男女とも上位3組までを表彰する。

11 参加申込 参加料 団体演武 1組につき 無料(県少連負担)円  
組演武 1名につき 無料(県少連負担)円  
単独演武 1名につき 無料(県少連負担)円

申込先 富山県少林寺拳法連盟 事務局 菅田眞一まで  
〒930-2123 富山市 山田 小島 715番地

TEL: 090-6271-0040 (携帯) FAX: 076-457-2534 (自宅)

[メール ssugata@knei.jp](mailto:ssugata@knei.jp)

申込方法 電子ファイル(後日送信)及び別紙参加申込書による。

電子ファイルはメールで、参加申込書は校長印を押印の上、郵送で2部上記まで提出する。締切 5月20日(月)

- 12 その他
- ① 北信越高等学校少林寺拳法大会については、出場要件を満たしている者から出場枠数に応じて上位者を派遣する。ただし、全国大会においては決勝ラウンドで240点以上の得点が得られなかった場合、別途専門委員会の承認を要するものとする。
  - ② 全国大会への派遣は組演武を優先し、単独演武に欠員が生じた場合は順次繰り上げて派遣する。ただし、240点以上の得点が得られなかった場合、また北信越大会への派遣は全国大会出場者(種目)を優先し、残りの出場枠は別途専門委員会の承認を要するものとする。
  - ③ 諸般の事情により北信越大会または全国大会で出場辞退者が出た場合は、各大会の出場要件を満たしている者の中から上位層を繰り上げて派遣する。この場合、別途専門委員会の承認を要するものとする。
  - ④ 種目②(規定演武)は別紙1の通りとする。

## 別紙-1

### 第4 2回全国高等学校少林寺拳法大会 組演武 予選競技Ⅱ について (公式発表)

#### 1. 蹴天三 …… 開構えから (選手Aが攻者、選手Bが守者)

攻者：中段構えより上段順突、中段逆突、中段廻蹴の三連攻。

\*三連目の蹴は直蹴ではなく廻蹴とする。

\*スピードを強調し過ぎ、肩腰の入っていない三連攻では加点しない。ただし、肩腰の入りを強調するあまり、突や蹴の間が不自然に間延びするのは同じく加点しない。

\*相手の蹴反撃をわざと当てるような動きは加点しない。

守者：一字構えより上受、同時受、十字受を行い、中段廻蹴で反撃。

\*反撃は直蹴ではなく、廻蹴とする。

\*受け、反撃のタイミングが**良く**、蹴り返しを相手に**当てる**。

ア、攻者の踏み込み (適切な間合い)。

イ、三連攻 (順突・逆突・廻蹴) の肩腰の入り。

ウ、上受での反り身、同時受での引き身、十字受での体軸の安定。

エ、蹴 (体軸の安定) の極め。

#### 2. 小手抜 …… 対構えから (選手Aが守者、選手Bが攻者)

攻者：中段構えより、順手で相手の順手を**握り捕る**。

守者：中段構えより、差し替えながら鉤手守法、目打ち、支点が動かないように抜き、裏拳打、中段**逆突**。

\*中段構えより誘う際に内掌を上に向けるような誘いをしない。

\*動きを強調しようとし過ぎ、残心が長すぎるものや、動きが止まっているようなものは加点しない。

\***払いについては有無を問わない**。

ア、攻者がしっかりと引く動作をしている。

イ、守者が後足を差し替えて、十分な鉤手守法になっている (当身は目打ち)。

ウ、寄足をして梃子の理で抜き、そのまま裏拳打につなげる。

エ、逆突の肩腰の入り (後足・膝の絞り) と極め。

#### 3. 屈身突蹴 …… 対構えから (選手Aが攻者、選手Bが守者)

攻者：中段構えより、逆拳を平拳にし、振突。

\*振突は三日月を狙う。

守者：一字構えより、屈伸受、突、蹴。

\*反撃の突、蹴の間隔は間髪を入れず当てる。

ア、攻者の踏み込み (適切な間合い)。

イ、屈身受と流水受を併用してかわす。

ウ、突、蹴のタイミングと反撃の効果のある間合い。

エ、蹴 (体軸の安定) の極め。

#### 4. 上受突 (表) …… 対構えから (選手Aが守者、選手Bが攻者)

攻者：中段構えより、逆拳で手刀打。

守者：一字構えより、攻者の手刀打を一步踏み込んで (差替) 上受、腰を入れながら中段突、上受を行った手で熊手突。

\*熊手突の形を正しく行う。

ア、攻者の踏み込み (適切な間合い)。

イ、攻者の手刀打の肩腰の入り。

ウ、差替入身と中段突のタイミングと腰の入り（差替足に重心をしっかりとせる）。

エ、間合いを詰めて（少し相手に寄って）熊手突と、その肩腰の入り（後足・膝の絞り）と極め。

#### 5. 上膊捕（両手） ……対構えから（選手Aが攻者、選手Bが守者）

攻者：中段構えより両手で上膊を強く掴み、押す。

\*攻者の攻め方は幾つかのやり方があるが、今回は両手上膊を両手で同時に捕りにいく。

守者：中段構えより両腕を理にかなった範囲で少し下げ上膊を誘う。鉤手守法を行い、順手で上膊抜を行い、抜いた後は、開退りながら上膊捕りを行う。

\*鉤手の後の当身の有無と方法は自由とする。また極めの当身の方法も指定しない。

\*上膊捕までの過程で、幾つかのやり方があるが、今回は順手側を抜き、逆手側で捕る。

ア、攻者が正しく攻撃をしている（掴み押し）。

イ、十分な鉤手になっている（当身の有無、方法は自由）。

ウ、上膊抜きの動き（手首の攻め方）と上膊捕の動き（退身、抜く際の足の位置、掛け手）。

エ、上膊捕の体勢（体軸がぶれず、体と手の位置が適切）と当身（当身の方法は自由）。

#### 6. 横轉身蹴 ……対構えから（選手Aが守者、選手Bが攻者）

攻者：一字構えより前足差し込み中段逆蹴。

守者：中段構えより順手で打払受（握拳）、順足にて蹴込み。

\*打払受の逆拳については、胸前にあっても、外受であってもよい。

ア、攻者の差し込み（適切な間合い）。

イ、適切な間合いになる横轉身。

ウ、打払受の動き（攻者の足首を受けている）。

エ、蹴（体軸の安定）の極め。

※上記の各技を順に行い、各技は双方行わない。（6構成）

※指定以外の技を行った場合は、失格とする。

※指定技の順序が違った場合は、失格とする。

※指定された以外の連反攻等（布陣・当身・構え）を行った場合は、総合点より10点の減点を行う。